

21世紀ひょうご市民学会 会報

15号
2011年1月20日

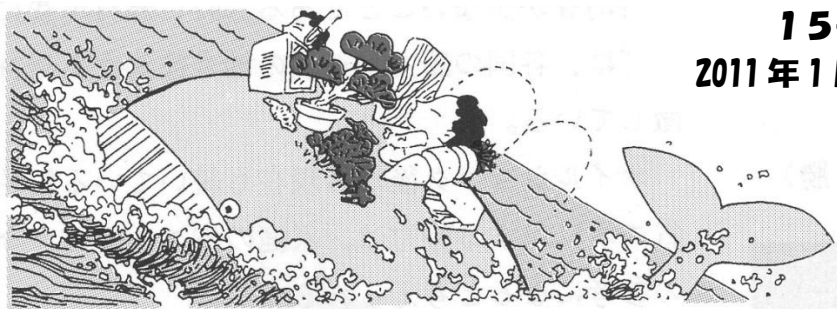
—編集・発行—

21世紀ひょうご市民学会

「神戸生活創造センター」登録番号 630

代表世話人 澤木昌典

<http://www.hyogo21ctzn.com>



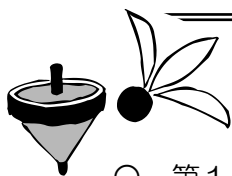
寒中お見舞い申し上げます。
今年もよろしくお祈りします。



お正月以来、日本列島が寒気団にすっぽり包まれたような冷え込みで震えあがりましたが、皆さまにおかれましては、お元気で新しい年をスタートされたことと思います。「日本人の生命は1年更新だ。どれ程辛い1年を過ごそうともそれは大晦日で終わって永遠の彼方に行く。そして、元日には枕元に1年分の暦という未来が届くことになっている。この国に暮らす人々は、こうして毎年毎年心を切り替えながら、襲い来る苦しみや悲しみを乗り越えてきたのだと思う…」という文に出会いました。私は、「この仕切り直し」があるから救われている！と勝手に思っていました。友人との電話でも、「生活のパターンを持ってそれをキチンと維持すれば、常にいい状態を保つことができる。その典型が世界のイチロー選手なのよ」と教えてくれました。自由であればあれほど、自制心をもつ大切さを感じます。

16年目の1.17を迎え「震災インフラ」という言葉に考えさせられました。16年前と比較して高齢化、地域コミュニティの崩壊、公務員の削減など、生活環境が大きく変化しているだけに、予測もつかない問題に直面するのではないかと思います。不安要素はいっぱいです。

まずは、健康でこのような活動に関われることに感謝し、年齢を重ねたからこそ見えてくること、やれることに取り組みしましょう。学ぶ心、遊び心を大切に。



これからの予定

- 第17回知的サロン 2月17日(木) 15時~17時
神戸生活創造センター 5階学習支援室
話題：「レアメタルとリニア新幹線」
話題提供者：中川政実さん・塩野勝さん
* 出欠用返信ハガキを同封しています
- 第4回研究活動 3月10日(木) 15時~17時
神戸生活創造センター 5階学習支援室
テーマ研究活動：景観を考える
龍野市を中心にまとめの作業にはいる

* 龍野の街を軸に景観の視点を出し合いまとめの冊子に仕上げる方向で話し合う。

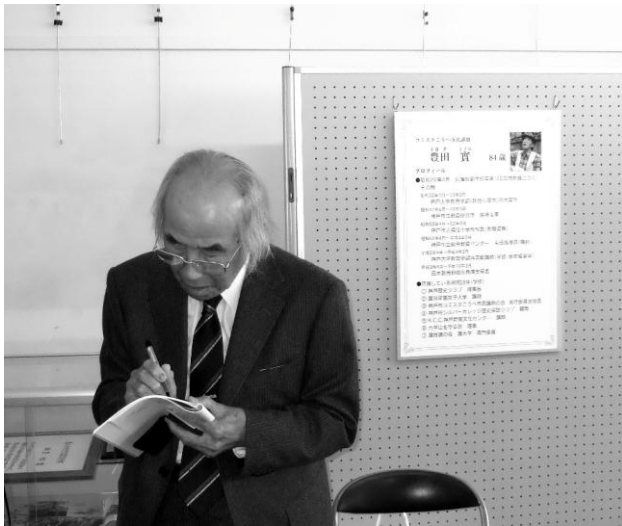
* 生活創造センター：JR神戸駅クリスタルタワー内 電話078-360-8530

神戸市中央区東川崎町1-1-3 (JR神戸駅より徒歩3分)



豊田先生の

「神戸市文化活動功労賞」受賞



豊田さんの記念展にて

昨年の11月16日受賞されました。心よりお喜び申し上げますとともに、私ども『21世紀ひょうご市民学会』会員の誇りと大変うれしく思いました。“おめでとうございます”

この賞は、「神戸市の学校教育の発展と社会教育の充実に長年尽力するとともに、神戸の歴史学について、歴史書の探究のみならず、史跡等を訪れ地域の人から話を聞くなど熱心な研究活動に取り組んでいる。実際に史跡を訪ね歩くスタイルで活動を続け、1000回を超える講座回数など歴史学の普及と地域文化の振興に貢献している」ことに対して贈られたものです。

今回、先生より『1000回の金字塔』と題した一文を寄せていただきました。

私が市民講師として、歴史関係の活動に出合ったのが平成13年4月。それから平成22年4月13日のコミスタこうべの歴史探訪友の会の歴史講演会で1000回を超え、大きな節目を迎えることができました。

思い返してみますと、私のような者がこの種の集いで会員の皆様に支えられて1000回を超えるようなことは夢にも思っていませんでした。しかし、この10年を語るには、まずコミスタこうべの「歴

史探訪友の会」の発展に思いを致さなくてはなりません。そしてこの会を創設していただいたことがバックボーンとなって、大きくスタートしました。そのつながりの上に、今の講演や講座があるのです。中でも、講演回数が250回以上にもなっているのには私も驚いています。

これは、ひとえに、コミスタこうべの方々の豊かな人間性が私の心をとりにしてしまっただけからです。そして、年数が経つうちに、人から人へと私の小さな活動が知れわたり、今では12の団体から依頼され、多いときには月20回以上、年間になると150回以上の機会を与えられています。

会を重ねるにつれ、私自身も勉強しました。それは、会員の方々が歴史探訪、講演、講座に来られて「あー来てよかったな、また次の会もこよう」と話して帰られる姿を大切にしたいと、どうすればいいかを考えました。それは、“魅力のある話し方とやろうと思う熱い思いから来る実践力”ではないかと思ひ至りました。そして今、探訪、講演講座の終わった後、「誠心誠意打ち込める場を与えていただいたことに感謝しています。これが私の生き甲斐であり幸せです。さらに私の流儀でやってきたことは、落語の小話と歴史の小話を組み合わせ、会員を笑わせ、また、歴史をたたえる歌を唱い、さらに下見で古老から聞いた話を織り交ぜた話ぶりも役立ったと自負しています。

以上のようなことから、1000回の集大成として多くの方の協力を得てパネル展を開くことができました。皆さまに感謝の思いでいっぱいです。

先生は「お地藏さんからマンホールまで町を歩けば、そこら中に、生活に直結した歴史がある」と言う持論で「面白さを知って、触って、見て、学びとってほしい」と話されていました。



福海寺(左)／兵庫大仏(右)

神戸市歴史ウォークに参加して

苗村 康弘／小林 東生



北野天満宮にて

豊田實先生の名引率のもと、昨年秋以降の2回の知的サロン・神戸歴史ウォークに参加させて頂きました。長年神戸に勤めながら歴史

史に不勉強だった自分が恥ずかしく、先生のご説明を聞きながら2回とも目からうろこが落ちる思いのウォーキングでした。

▽平成22年10月8日の「兵庫津の道」ウォークでは、JR兵庫駅南へおよそ新川運河・旧西国街道、JR高架に囲まれた地区を2時間ほどご案内頂きました。この地域に神戸港の発展の基になった大輪田の泊（とまり）の原点と繁栄の跡を偲ぶ数多くの史跡が残っているのに驚きでした。中でも最も興味ぶかかったのは、新川運河近くに遺物として展示されていた大石でした。神戸港の海中から掘り起こされた大石は、大輪田の泊、ないし兵庫の津を構成していた旧港の一部と見られていて、これまで想像の域にあった大輪田の泊を実際にこの目で見た実感がして印象的でした。

▽平成22年12月10日の「移住ミュージアム・北野異人館界隈」のウォークはいわゆる北野界隈の歴史探索でした。ここでもいくつかの「目からうろこ」がありましたが、私が最も印象に残ったのは、北野天満宮でした。異人館「風見鶏の館」近くの高台にある北野天満宮。確か京都にも受験詣で名高い同名の神社があったことを思い浮かべながら、先生のご説明を聞くと、それは平清盛が福原遷都（1180年）のとき、京都の北野天満宮になぞらえて福原新都の北方鬼門鎮護のために建立したものとことでした、北野町の由来でもありました。

神戸港（大輪田の泊）発展の基礎を築き、また神戸観光を支える異人館街の象徴・北野町の由来になる守護神社を建立するなどした清盛の業績は、福原遷都跡（1180年）から約800年以上の後までも、神戸の発展に関係していることになり、その影響力の大きさが感じられます。豊田先生の清盛に関するご説明のくだりに、他にない熱い思い入れが感じられ

ましたのも、今思えば決して偶然ではなかったのです。

以上、誠に含蓄の深い2回の神戸歴史ウォークの知的サロンでした。（苗村 康弘）



清盛塚にて

「兵庫津の道の探訪」はJR兵庫駅の南側約2km四方に点在する史跡（神戸から現代）の見学研修だった。高名な豊田

實先生の名解説で多くの知識を得た。感謝の外はない。特に注目したのは、清盛の功績を史跡や遠近の地形等を指差しながら、未開発の兵庫を発展さす努力をした業績を述べられたことだ。十余年を費やした強引な築港中の悲話も語られた。交易による富で世間を変えたかったのか。三方を山地で囲まれた京に見切りをつけ、海・山と共存する兵庫の野に新しい都を計画した巨人を見る想いがして私の平家観は一変した。西方に向いて立つ清盛像に初めて参り、解散。“追われ〜平家のきんだちあはれエ〜”の歌が口をついて出た。

2回目は北野地域にある異文化の今昔を訪ねた。様々な教会の前に立つ度に、戦時中はほとんどの宣教師を拘束した仕打ちに思いをはせた。坂の多い現地を健脚の豊田先生は速足（1時間で6kmを行軍すること）で回られる。遅れまいと努力した。まさに師走の研修だった。多くの異人館が発する文化は、幕末に開港した成果となり近代化に貢献した。比類のない観光地となったが、先人たちから受けた恩恵を伝える文言は観光案内書に見られない。

最も見学を望んだ交流センターは改装されて、期待した昔日の面影は想像もできなかつた。が、『蒼氓』の影響よりも戦後に何度も乗り継いだ舞鶴駅での光景、即ち、敗れし国の民が外地を追われて引き揚げてきた有様と移民を重ねてみようとしていた。金沢への遊学の途中に焼きついた同胞の姿を思い出した見学だった。（小林 東生）

研究活動の動き



11月11日(木)小京都といわれる龍野の街を、ボランティアガイドさんの熱心な案内で3時間見て回りました。参加人数は9人。地元のリーダー女性という感じで、故郷をとっても大事に思われており、できるだけ多くを伝えたいという思いがあふれていました。個人的には、龍野は知ったつもりでいましたが、歩いて初めて見えること、知ることが多いことに気づきました。

野口さんが、龍野市が発行している小冊子『あすの景観をつくる 龍野市龍野地区 景観ガイドライン』を前もって手に入れて下さり、帰って読み直すとよくわかりました。澤木先生もこの冊子を

よく見ておくようにとのアドバイスでした。

1月の研究会で、龍野の景観について、私たちの視点で整理した冊子を作り、龍野市に提案することも意味があるのではないかということになりました。その際、これまで見学した、郡山市、尼崎市の景観事例も参考にすることになりました。

3月は2年間のまとめの作業に入ります。多様な視点から、多くの意見、資料などを持ち寄ってください。

21世紀ひょうご市民学会に参加して



●伊藤 眞平さん



新年明けましておめでとうございます。知的サロンには随分お世話になっております。みなさん熱心で一生懸命勉強に励んでおられる姿には感心させられます。小生の好きな言葉に、幕末の儒者、佐藤一斎先生の「少(わか)くして学べば、

則(すなわ)ち壮にして為す有り。壮にして学べば、則ち老ゆとも衰えず。老いて学べば、則ち死すとも朽ちず。」というのがあります。誠にうまく教えて下さっていると思います。

小生ももはや75歳を超えましたが、まだまだヒヨコの感が致しております。その意味で生まれ故郷神戸にできたこの会に入れていただき、たくさんの方々から、教えていただくことはありがたいことと思っています。例会に参加すると奥深い歴史の話が聞けて、充実感があります。まさに、「老いて学べば…」の感です。このような活動に参加するには、まず健康な体、身体が自由に動かなくてはなりませんね。私は、11歳の頃から始めた「野

球」を今でも続けております。有名プロの選手にはなれませんでした。草野球ながら、できるころまで頑張ってやっていたと思っています。土・日には地域の少年野球のコーチを30年以上。また、会社の野球にも、子どもと同じ年代の人たちに入れてもらってやっております。お陰でその人たちから若さをももらっており、呼んで遊んでくれるだけで満足しています。

好きなことをとことん続けることが生きがいになると実感しています。

●橋本 昌子さん

この度(2010年8月)入会させていただきました。もともと歩くことが好きで、知らないところを見て回ることに興味があります。「兵庫津の道」「たつの」「異文化と神戸」と、説明を受けながら楽しく見学しました。神戸で生まれ育っていながら「兵庫津の道」では知らないところばかりでした。「たつの」は初めて訪れたのですが、古い町並みを残しているきれいな町でした。また、神戸山手にはいろいろな宗教の寺院があることに驚きました。何にでも興味を持っていますが、学んだこともすぐに忘れてしまうので困りますが、少しずつ勉強していきたいと思っています。



あとがき

今号は豊田先生の特集版にしました。『イラストの鯨。見れば見るほどよくできたイラストですね。「ノアの箱舟」を思ったり「日本沈没」の小説を思ったり。作者さんのおつむはたくさんの方が詰まっているのでしょね。他の作品も披露してほしく思います(小林)。』という言葉頂きました。